

蒲生

かも

町制施行80周年記念誌

鹿児島県蒲生町



町制施行80周年記念誌

蒲生

かもろ



鹿児島県蒲生町



ごあいさつ

蒲生町長 厚地 和幸

蒲生町は、昭和3年11月に町制を施行してから今年で80周年を迎えます。これは、鹿児島県内の町では2番目に古い歴史を持つ町となります。この間、先輩諸氏や町民の皆様の英知と努力により、幾多の困難や厳しい社会情勢を乗り越え、ここまで蒲生町が発展してきたことに対し、敬意と感謝の意を表します。

蒲生町は、町制施行当時からすると人口は減少してお



りますが、町政は町民の皆様のご協力のもと歩みを続けており、今後も、人口規模は小さくても「自然と共生した光り輝くまち」を目指し、行財政改革を進めながら、積極果敢な町政運営を図ってまいります。

特に、鹿児島県本土の中央部に位置している地理的優位性を活かした「観光振興対策」や「定住促進対策」を積極的に進めてまいります。また、日本一の巨樹「蒲生のクス」をはじめ、美しい自然環境を背景に、県下でも数少ない薩摩古流の兵法に基づく町割りや武家門・石垣が残っており、これらを維持保全し、観光振興に活かす対策を講じてまいります。

併せて、町の基幹産業であります農業の振興対策をはじめ、生活基盤の整備、生活環境の整備、保健・福祉・医療の充実、産業の振興、教育文化の振興について、町民の皆様の声を最大限に活かしながら、町民の皆様との協働によるまちづくりを進めてまいります。

今後とも、町民の皆様と一体となって町政発展のために努力してまいりますので、なお一層のご理解ご協力をお願い申し上げます。

町制施行80周年を迎えるにあたり、ここに記念誌を作成しましたので、ご高覧いただきますようお願いいたします。最後に、町民の皆様のご健勝と益々のご発展をご祈念申し上げ発刊のあいさついたします。

平成20年10月

目次

2・3	ごあいさつ
4・5	蒲生町の概要
6・9	わたしたちの蒲生町
10・11	ふるさと蒲生町
12・15	町制施行80周年記念座談会
16・17	蒲生町80年の歩み(中扉)
18・19	蒲生町歴代町村長・議長
20・23	蒲生町前史
24・55	蒲生町80年の歩み
56・57	「夏期巡回ラジオ体操・みんなの体操会」開催
58・59	まちづくり計画
60・65	蒲生の未来派 図画・作文コンクール
66・67	町民憲章、町花・町木、町章、 蒲生町民歌・かもっ音頭

蒲生町の概要

位置

本町は、鹿児島県本土のほぼ中心にあり、北緯31度45分31秒、東経130度34分19秒（役場所在地）に位置しています。空港から21キロメートル、県都鹿児島市中心市街地から24キロメートルの距離で始良郡の最西部に位置し、東は始良町、西は薩摩川内市、南は鹿児島市に隣接しています。

地勢・面積

本町の地形は、ほぼ三角形で南部において東西に広く、北に進むにつれて狭くなっていますが、東南部の一部を除き三方山に囲まれ、特に西北郡境は標高400m～500mの山岳が連なり、東南に向きなだらかとなって平地に続いています。

河川は、町の西北部境に源を発し、山間溪谷を経て別府川及び前郷川となり、市街地を挟むような形で東南へ流れています。また、前郷川は下久徳字岩迫において別府川と合流し、鹿児島湾（錦江湾）に注いでいます。面積は、8,129haであり、町域の7割は山地で平地は3割に過ぎず、山地は急峻で起伏が激しい地形となっています。





蒲生町の位置



蒲生町へのアクセス

- 鹿児島空港から 約30分
(加治木経由空港バス)
- 鹿児島中央駅から 約45分
(車・国道10号線)
- 鹿児島中央駅から 約50分
(JR帖佐駅・南国バス)
- 鹿児島中央駅から 約1時間
(バス・重富経由・南国バス)
- 霧島神宮から 約1時間20分
(車・県道利用)
- 宮崎市から 約2時間
(高速利用・宮崎市内～始良IC)

わたしたちの蒲生町

郷土は史跡と緑の豊かな里
人が輝く、物や地域が輝く町に



中條 政昭さん (無職) 八幡

町制施行の年に生まれ、町と共に80年を過ごしました。少年時代は野山を駆け巡り、川で泳ぎ自然の中で育ち、青春時代は戦争のため、ひどい食糧難や米軍による空襲、学徒動員等の体験もしました。成人後は平和が続く中で町政の発展を見守り、微力ながら応援にも心掛けました。蒲生城跡・御飯屋門等数多い史跡や、面積の70%以上を占める森林等、蒲生にはたくさんの財産があります。きれいな空気、岩間から湧き出る豊富な水を水源にしたおいしい水、周りを緑で囲まれ、年老いても住みやすい落ち着いた町です。

町おこしの基本は人材であると思われ
ます。良い人材が育つと町が栄えま
す。思いを強く、深く、熱くたぎらせ、
それが未来の展望を与え、開き、型にし

ていく。その思いに歴代町長さんをはじめ関係の方々が努力され、町民一体となり、故郷を守り育て、80年の歴史が築かれました。現在は内外共に厳しい時代ですが上層部のリーダーのもと、皆が協力し、更に町が発展することを望みます。

町発展のために、物や地域が輝くために大切な宝物は、しっかり守り伝えたい、その一つは大楠です。以前は少なかった見学者も昭和63年、当時の環境庁から日本一に認定され全国から観光バスで見えるようになりました。お墨付きというのは有難いものです。自分の住んでいる町を誇りに思い、他町にない個性のあるものを活かす。伝統を受け継ぐ人、新しい時代の息吹を吹きこむ人の両者がかみ合わなければ、よい行事もできないし地域の発展もありません。

地縁・血縁の時代は薄れつつあります。自分から地域に縁をつくり、グループに縁をつくる時代です。出来る人が、できる立場でリードし皆が協力することにより人が輝き、物や地域が輝く町の手助けにもなるでしょう。町制80周年を祝い、今後の発展を願っています。

自分から進んで地域に溶け込み、
地域の人達と融和協力を



三宅 義和さん (無職) 迫

緑したたる蒲生の地に足を踏み入れ
てから、今年の11月1日で丸4年にな
ります。

私ども夫婦は、縁もゆかりもない、全く見知らぬこの蒲生の町を初めて知つたのがインターネットでした。

4年前とにかく、どのような町かこの目で確かめたいという気持ちで先に立ち、下見に訪れたその日のうちに早々と契約を済ませ、大阪へトンボ帰りというスケジュールで、町並みの様子など当時は知る由もなく、ただ、緑に囲まれた静かで空気のうまそうな町というのが第一印象でした。

2004年11月1日からこの町にお世話になり、いざ、生活をスタートさせ戸惑いを憶えたのが、家庭用ゴミ回収日の間隔の次回迄が長い、郵便ポストが近くに見当たらない、街灯が少なく夜ウォーキングするのに懐中電灯が必要：などなど。今まで住んでいた町が

あまりにも便利良すぎていた事と比較し、早く現実に馴染んでいかねばと頭の切り替えも早く、これから、この町にお世話になるのであれば、もう少しこの町を知ろうという気持ちが強くなり始めました。

2006年6月に蒲生町に対する行政改革を提案させていただき、快く応対していただいた厚地町長との面談、又、その年の9月、まちづくりプロジェクトへも参加させて頂き、この蒲生の町を少しでも住み易くする為に、メンバーの方々との意見交換など勉強する機会を頂き、少しずつこの町の動きが分かるようになってきました。

更に、この町をよく知るために、できるだけ地域に溶け込んで行くことで、お互い顔見知りも増え、少しずつですが会話が出来るようになり、最初は小さな波紋が次第に大きく広がりはじめ、ようやく地域とのつながりが持てるようになったてきました。

今では、微力ながらこの町のお役に立てればと、公民館活動を引き受けさせて頂き、地域のみなさんと和合しながら、一歩ずつではありますがようやく歩み始めたところです。

まだまだ新参者ですが、これからも宜しくお願ひします。今後、蒲生町の更なるご発展を祈念致します。

故郷への熱い思いを心で繋ぎ止めた 愛のキャッチボール



田仲 壽恵さん（無職）小川内

しまい、取るものも取り敢えず、吉田越えてカタカタ揺られ乍ら辿り着きました。哀しみと不安に馳れながらの帰郷でしたが回りの人々の優しさに支えられあつという間に30数年を過していました。

帰郷するにあたっては、娘の気持ちを尊重し乍らどう切り出したものかと優しい夫は随分躊躇（ためら）っている様でしたが、もうすぐ6才になる娘に、「蒲生に帰ると自転車に自由に乗れるよ!」と、話しかけていました。その時娘は嬉しそうに、二つ返事で行く行くと答えていました。その足で二人は肩を並べていそいそと自転車屋さんに行きました。

夫は正直、後ろめたい気持ちもあつたのですが、そのタイミングの良さに私はほとほと脱帽でした。

でも、絵に描いた様に美しい自然の中のびのび育ち新しく出来た沢山の友達に囲まれ蒲生を大好きな娘は、二人の息子の親となった今も、自転車につられた事への後悔は後にも先にも只の一人もなかったと言っています。

幼い乍らも父親の苦衷を心に留めていたのだと思います。時は今しも合併問題で大揺れに揺れています。蒲生を愛する人々の決断を信じより佳き結果を期待して止みません。

蒲生で暮らす幸せ、町全体で子供たちを見守ってくれている安心感



里村 和彦さん（自営業）川東

私達家族が蒲生町で暮らしはじめて5年が過ぎようとしています。

両親と近隣の方々の暖かい協力をいただき自然あふれる歴史の町を満喫しています。

家内は元々蒲生の出身ですので、引越して来る前から何度もこの町を案内してくれました。私は沢山の蒲生の魅力を知ることが出来ました。そのころから私はこの落ちついた雰囲気の中で趣味もあり、仕事でもある絵を描きたいと思っていました。

その後願いが叶い今ではこの地で仕事と三人の子育てに奮闘の毎日です。

子育てに関しては、まだまだ未熟な私達です。大楠ちびつこ園と学校の先生方に助けていただき、その手腕に甘える事も多いです。

大楠ちびつこ園は幼稚園と保育園の統合という形でスタートし先生方は大変御苦労されていると思います。システムの違いをひとつにまとめるのですから無理も無い事と思います。その中にあつても、いつも笑顔で対応して下さいます。学校の先生方も子供達と近い距離で接して下さり、帰宅した子供達は今日の出来事を楽しそうに教えてくれます。

学校やちびつこ園、そして蒲生という町全体で子供達を見守ってくれている様な安心感があります。

蒲生を自分の故郷として育つ子供達には、今ここにある自然環境を大切に、感謝の心を忘れないでほしいと願います。

今遠くから太鼓踊りの歴史ある音が聞こえてきました。じつくりと耳をすましながら蒲生で暮らす幸せを感じています。

最後になりましたが、町制80周年に際しお祝いを申し上げますと共に子供達を見守って下さる町内の皆様にお礼を申し上げます。

わたしたちの蒲生町

蒲生で生まれ育ち37年、 子の親となり、父の後を継ぎました



中園 輝美さん（農業）下久徳

蒲生町制80周年ということでこの文章の話を頂き私の心境、思いを書かせて頂きました。

生まれも育ちも、私は蒲生っ子。37年の町で暮らしています。さすがに周りの風景はだいぶ変わりました。小さい頃は、近所の幼なじみと近くの川で泳いで遊んで魚獲り、広場に集まり今ではほとんど見なくなったビー玉遊び、原っぱでは段ボールを集めて秘密基地作り、勉強もしないで朝から晩まで一日中遊びまわって、親からはよく叱られたものでした。

でも今ではすっかりその風景は変わり思い出の場所は、この十数年の間にさすがに少なくなりました。淋しさもあり、これからどうなっていくのか期待もしつつ。私も年を重ね、あまり言いたく

はないが「おっさん」になりました。蒲生の町も時を刻み、年を重ね進んでいます。道というシワが新しくでき、建物というオデキがこれからも増えていくのだろうと思うと楽しみ半分、やはり淋しさも。

私は、この町が好きです。生まれ育った町を嫌いな人は、まずいと思います。今、私の子どもは、この町で遊び、学び、笑い、泣き、すくすくと育っています。この子にもたくさん思い出の場所を作ってもらい、歴史と文化、豊かな自然あふれる蒲生でいろんなことを学んでいつてもらいたいです。

私もこの町で親父の後を継ごうと思いつ農業を始めてはや7年経ちました。まだまだヒヨツ子。親父の足下にも及ばない半人前の修業の身、これからここでも米、野菜を作り、この蒲生をここに住んでいる地域の方々と和気藹々と貢献し合いながら前進していければと思います。

蒲生の柔らかくまろやかな水と 温かく優しい応援の声に励まされて



新名 豊さん（商業）中央A

Uターンして「そば処にいな」の四代目となり、早いもので2年がたちます。元気でばりばり働いていた父が突然病に倒れ、療養生活に入ったことがきっかけでした。

東京の方で就職していた私は、山や川、緑の極端に少ない生活も経験しました。離れてみて改めて感じたのは、ふるさと「蒲生」の素ばらしさ、豊かな自然の恵と人の温かさです。

私は幼い頃、父に「もつと人口の多い所でそば屋さんをしたらいいのに。もつと儲かるよ」と言ったことがあります。「いいや、蒲生がいいよ、蒲生だからいいんだよ」と父が穏やかに、そして少し誇らしそうに言ったのを思い出します。私がそば打ちを本格的にし始めて思うのは、この蒲生の水なくして「そば処に

いな」の味はでないということです。そば粉を合わせ練る時の水、ゆがく時の水、そして出汁に使う水。どの行程にも、蒲生の柔らかくまろやかな水がなくてはならないのです。また、Uターン後、右往左往しながらも「そば処にいな」をやつてこれたのは、数多くの方々の温かいご支援と励ましがあったればこそだと思います。「豊、きばれよ」と我が子のように見守つてくださるかた、「美味しいそばだったよ、また食べに来るからね」と優しく声をかけてくださるかた。折にふれ、人と人とのつながりの大切さ、ありがたさを感じます。父が「蒲生だからいいんだ」とあの時言つた訳が、今なら充分理解できます。

今後とも、父の作つたそばの味を守りつつ、自分なりの「そば処にいな」を築いていけるよう、日々精進していこうと思います。

蒲生の豊かな自然と四季の変化、 色々な「であい」が財産に



花田 さつきさん (主婦)北

縁あつて蒲生に来て7年が経ちました。その間に小学生だった長男は中学生に幼稚園だった長女とまだ幼稚園にもいっていない次男が小学生になり年月の経つのは早い事を実感しています。

蒲生に来た頃は「蛙の音が煩くて眠れない」と必死に訴えていた長男も今では蛙の声を子守歌にして眠っています。

春は家の庭先や道端、周りの山々そしてそよ吹く風に生命の息吹を感じ、夏は蛙の合唱に耳を傾け蛍の光に心を癒される。秋は赤とんぼの道をかけぬけ冬は山々の雪化粧を楽しみに雪を待つ。普段の生活の中で四季を感じられ

るのは本当にすばらしい事だと思っています。そして、その自然の中で遊び、そこから色々な事を学ぶのは子ども達にとって大切な事です。このような環境の中で子育てできるなんてとても素敵です。

また、蒲生に来て子どもと一緒に居合道を始めました。回覧板で部員募集を見て興味を持ち、全く知らなかったけれどやってみることにしました。居合道は声を出さず精神を集中して行います。声を出さないと言う事はすごく緊張するもので、それをどうコントロールして心を静めるかが大きな課題になります。心を静めるのはとても難しいですができた時は本当に穏やかです。こんな時間が持てるなんてとても幸せです。居合道を始めたのがきっかけで子ども達三人は剣道と巡り会いました。夏の暑さや冬の冷たさに耐え一生懸命練習して少しずつ遅くなっていく子ども達に目を細めています。続ける事が大切だと感じています。

このように蒲生に来て色々な事に会い、たくさん素敵な人に出逢いました。この「であい」は私にとっての大切な財産です。子ども達が成長しても蒲生が色々な財産を持ち続けている事を期待しています。



池田 義晃さん (学生)川東

大地の恵みと築きあげた文化、 それを大切にする心

私は蒲生という素晴らしい町で育ち、もうすぐ20年たちます。蒲生は美しい自然、歴史と文化がありとても住み心地のよい町だと思います。山や川、夜には星が美しく蒲生の空を照らしてくれます。又、蒲生の道を歩んでみると、日本一の大クスの木を初め、八幡神社、蒲生どん墓、磨崖一千梵字仏蹟、武家屋敷通り、御飯屋門と文化財がたくさんあり、行事ではお祭りや蒲生市、てこ踊りがあり、歴史と文化と自然の町だということを感じます。

これらの貴重な文化財と自然の恵みが、今、現在も生き続けているというのは、蒲生を愛する人たちがたくさんいると言うことです。蒲生の人々は、あたたかみや暖かい声が聞こえ活気を感じ、窓口では、新しく蒲生に住もうとして

いる人々や、様々なことを親切丁寧に教えてくれます。このような力強く暖かい街が、私は大好きです。

今、私は看護師という職業に就こうと学業につとめています。やはり人間が人間を看るといふことは、とても難しく学ぶことが多々あります。又、技術力も大切になり患者の安全、安楽を追求し、「人間愛」「独立自尊」「学如不及」のもと豊かな人間性を育み、ヒューマンケアに必要な専門的な力を習得したいと思っています。

私は、就職先を、まだきめていませんが、蒲生の街から一度出てみようと思っています。そして、職業面や、他の地域の文化、様々な事を学び、蒲生の街へ再びもち帰ってきて、この蒲生をもっと力強い街にしていきたいと感じています。この夢を実現するために、これからこの蒲生で育ったことを糧にして、日本一の大クスの木に負けないよう精進していききたいと思っています。

ふるさと蒲生町

町制施行80周年を祝つて



関東蒲生会会長 満田 泰啓さん

故郷「蒲生」の皆様、お健やかでご健勝のこととお慶び申し上げます。

美しくのどかな蒲生郷、ふるさとを同じくする関東蒲生会会員361名を代表させていただき、栄えある町制80周年記念を心よりお祝い申し上げます。

過日、同じ80周年を迎えているラジオ体操の蒲生から中継を聞きながら昔を思い、今を偲び感動いたしました。この記念すべき節目の年、誇り高き蒲生郷の歴史・文化・伝統を偲び、新生「かもう」造りの新たなスタート台となりますようご祈念申し上げます。

この記念すべき目出度い年、11月の記念式典へ向けて町民の皆様と全国同

郷会の皆様が連携して共に盛大にお祝い出来ますこと心よりお慶び申し上げます。思えば平成17年正月の町の公報で町制施行77年目であることを知りこの年の関東蒲生会総会で当時の晋町長に参加いただき、蒲生町の喜寿を祝いました。その時からの寸志が今年「町中ポケットパーク」のペアーの「イヌマキ」として記念植樹されましたこと慶びに耐えません。

さらに、故郷創生、美しくさらに特徴のある町への想いで創設致しました「桜基金」など、想いを受け止めていただき「故郷を想う丘」が誕生して、昨年第一回目の桜植樹祭をさせて頂きました。今年より関西・名古屋圏の蒲生会も参加頂くことになり、式典前日の11月1日に記念式典行事の一つとして第二回植樹祭を企画頂きました事、同郷の会員一同大変喜んでおります。この丘は同郷の会だけでなく町民の皆様と共に故郷を想い、故郷創生のシンボルとして完成されることを願っております。この場をお借りしてご理解とご支援を頂きました厚地町長他役場の関係者の方々に厚く御礼申し上げますと共に、町民の皆様のご理解・ご支援により「紡ぐ心が町の誇り」となる「丘」となり、その想いが新たな街づくりの力となりますよう、ご理解とご支援宜しく御願いたします。

故郷を遠く離れて暮らす私たち「関東蒲生会」の想いと心が少しでも新生蒲生造りのお役に立てますよう祈念致しつつ、新たな門出を迎えました町制80周年記念の祝辞に替えさせていただきます。有り難うございました。

町制施行80周年を祝つて



近畿蒲生会会長 高槻市議会議員

久保 隆夫さん

我々、近畿蒲生会は、総勢350名余りの会員により運営されており、毎年、総会を開催しております。本年度の総会は5月25日(日)に開催され、ふるさと蒲生の執行部より厚地町長、本渡教育長、甲斐課長、蒲生町議会より大嶺議員と小山田議員の出席を賜り誠にありがとうございました。また、ふるさと蒲生から「こさんだけ」のお土産や多数の特産品の即売会していただき出席者一同、非常に感激し盛況のうちに平成20

年度の総会を終えることができました。近畿蒲生会は、ふるさと蒲生の歴史を語り、近況を報告し友好を深めることを目的としており、今年も会員同士ふるさと蒲生への想いを語り親交をより深めることができました。

また、今年は蒲生町の町制が施行されてから80周年を迎えるにあたるというところで、近畿蒲生会の会員一同、心よりお祝い申し上げます。11月2日(日)には、記念式典が挙行され、その前日には、ふるさとを想う丘に記念植樹が計画されているとお聞きしております。近畿蒲生会におきましても、この記念植樹に併せて、このふるさとを想う丘に桜を寄贈することになりました。新たな蒲生の名所となるよう期待しております。

政治、経済社会が複雑多岐にある中で、都市も地方も抱える課題は同様であります。少子高齢化の急速な進行のなか、年金、医療、介護など、議会、行政、町民まさに三位一体の努力なしに町の発展は望めません。これからの極めて困難な状況の中にあっても、しっかりと将来を見据え、積極的な町政運営を行い、ふるさと蒲生の更なる発展を期待します。

今後、ふるさと蒲生の限らない発展と皆様のご健勝、ご多幸を祈念してご挨拶とさせていただきます。